

草場上二ノ坪遺跡

行橋市文化財調査報告書 第57集

2015

行橋市教育委員会

平島地区湛水防除事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

草場上二ノ坪遺跡

行橋市文化財調査報告書 第57集

2015

行橋市教育委員会

序

本書は、平成26年度に平島地区湛水防除事業の水路工事に先立ち実施しました、草場上二ノ坪遺跡の発掘調査の報告書です。

遺跡の所在する草場地区は京都平野を北流する祇川下流の左岸にあたり、近辺には旧郷社の豊日別宮が鎮座し、南が豊前国府、国分寺、北へは祇川を通じて国府の外港の今井津に直結するなど、古くから交通の要衝として栄えてきました。

今回の調査では古代から近世の遺構、遺物を確認しましたが、この成果は当地周辺の地域史の解明に寄与する重要な成果と思われます。本書が学術研究はもとより埋蔵文化財への理解と認識を深めるために、広く活用されることを願います。

なお、発掘調査および報告書作成に当たって御協力いただいた、福岡県行橋農林事務所、福岡県教育委員会、地元草場区の方々をはじめとする関係各位に深く感謝いたします。

平成27年10月

行橋市教育委員会
教育長 笹山 忠則

例 言

1. 本書は、福岡県行橋市東泉五丁目 712-4 他に所在する草場上二ノ坪遺跡の発掘調査報告書である。平島地区湛水防除事業の水路工事に伴い、県の受託金を受け、平成 26 年度に発掘調査を実施した。
2. 調査および報告書作成は、行橋市教育委員会が主体となって行った。調査組織は第 1 章第 2 節に記す。
3. 遺構の実測は佐藤愛子、島木邦子、田中すま子、中島裕子、古木初子、山口裕平が行った。
4. 遺構写真は山口が撮影した。
5. 遺構図の整理は松本まゆみ、山口が行った。
6. 遺物の接合・復元は枝吉恵美、佐々木豊子が行った。
7. 遺物の実測は松本、山口が行った。
8. 遺物写真は山口が撮影した。
9. 遺構・遺物図面の浄書は松尾留衣、松本が行った。
10. 本書に使用した遺構の略号は SD（溝）、SP（柱穴）である。
11. 本書に使用した方位は、世界測地系に基づく座標北である。
12. 報告した遺物、図面、写真は行橋市教育委員会において保管している。
13. 本書の執筆および編集は、山口が行った。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査の経過(日誌抄)	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 草場上二ノ坪遺跡	5
第1節 I区の調査	5
第2節 II区の調査	5
第3節 III区の調査	5
第4節 IV区の調査	8
第4章 結語	9

図版目次

図版 1	草場上二ノ坪遺跡の位置	図版 5	1. II区東側の柱穴群
図版 2	1. 調査前(北西から)		2. III区全景(北西から)
	2. I区全景(北西から)		3. III区全景(南東から)
	3. I区全景(南東から)	図版 6	1. III区遺構検出状況
図版 3	1. I区SD001 検出状況		2. IV区全景(北西から)
	2. I区SD001(北東から)		3. IV区全景(南東から)
	3. II区全景(北西から)	図版 7	1. 発掘作業風景(III区)
図版 4	1. II区全景(南東から)		2. 測量調査風景(I区)
	2. II区全景(南から)		3. 完成した水路(北西から)
	3. II区遺構検出状況	図版 8	草場上二ノ坪遺跡出土遺物

挿図目次

第1図	草場上二ノ坪遺跡調査区域(1/5,000)
第2図	草場上二ノ坪遺跡の位置(1/2,000,000)
第3図	京都平野の主要遺跡分布図(1/80,000)
第4図	草場上二ノ坪遺跡遺構配置図(1/200)
第5図	草場上二ノ坪遺跡出土遺物実測図(1/3・1/2)

表目次

表 1	草場上二ノ坪遺跡出土遺物観察表
-----	-----------------

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯と経過

平島地区（行橋市北泉五丁目・泉中央五～七丁目・東泉一～四丁目）は祇川左岸の扇状地に位置し、行橋市のハザードマップで洪水時には1m前後冠水する恐れがあると注意が喚起されている。なかでも県道長尾神田平島線（福岡県道250号）に面した泉中央七丁目及び東泉二丁目付近は、人家が建ち並び水路が狭小なため、大雨時には周辺の田畑が冠水することもしばしばであった。

このため、福岡県行橋農林事務所は、平島地区の上手にある草場地区に、雨水を祇川へと排水する水路の新設を事業化（平島地区湛水防除事業）し、平成25年12月に行橋市教育委員会に対し、埋蔵文化財の有無の照会を行った。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地（草場上二ノ坪遺跡）に隣接し、遺跡の存在が想定されたため、平成25年12月19・20日に工事予定地点の計4ヶ所で試掘調査を行った。その結果、3ヶ所の試掘坑で柱穴、溝などの遺構を確認し、草場上二ノ坪遺跡の範囲が広がることとなった。このことから福岡県行橋農林事務所と行橋市教育委員会の間で当遺跡の発掘調査に関する協議を行い、翌平成26年度内に行橋市教育委員会が主体となり発掘調査を行う運びとなった。

調査は平成26年5月1日から同10月7日まで、途中中断期間を挟み、実数37日間をかけて行った。調査面積は約360㎡で、調査体制は次節に示す通りである。

第2節 調査体制

現地調査（平成26年度）

総括	行橋市教育委員会	教育長	山田 英俊（～10月8日）
		教育部長	灰田 利明（～9月30日）
		教育部長	坪根 義光（10月1日～）
調査		教育部文化課長	小川 秀樹（～9月30日）
		教育部文化課長	亀田 秀雄（10月1日～）
		教育部文化課 参事兼文化財保護係長	小川 秀樹（10月1日～）
		教育部文化課 文化財保護係長	辛嶋 智恵子（～9月30日）
		教育部文化課 文化財保護係	中原 博
		教育部文化課 文化財保護係	山口 裕平（調査担当）
庶務		教育部文化課 文化振興係長	高尾 信次郎
		教育部文化課 文化振興係	森 雅代
		教育部文化課 文化振興係	入生 佳奈
		教育部文化課 文化振興係	田坂 彩

発掘調査作業員

赤波江静代 安藤 隆弘 岩永 成美 大村 英幸 緒方 景俊 小野田トミエ 菊池 忠夫
小淵八寿子 佐藤 愛子 島木 邦子 田中すま子 中島 裕子 古木 初子 松尾 公子
宮崎 和子 森門 碧 山田 拓三 山本 要二 吉田 幸子

報告書作成（平成27年度）

総括	行橋市教育委員会	教育長	笹山 忠則
		教育部長	坪根 義光
		教育部文化課長	亀田 秀雄
調査		教育部文化課 参事兼文化財保護係長	小川 秀樹
		教育部文化課 文化財保護係	中原 博

	教育部 文化課 文化財保護係	山口 裕平 (報告書担当)
	教育部 文化課 文化財保護係	天野正太郎
庶務	教育部 文化課 文化振興係長	高尾信次郎
	教育部 文化課 文化振興係	森 雅代
	教育部 文化課 文化振興係	入生 佳奈
	教育部 文化課 文化振興係	田坂 彩
整理作業員		
	枝吉 恵美 奥野 康代 鎌田 尚子 佐々木豊子 定野美津子 松尾 留衣 松本まゆみ	

第3節 調査の経過 (日誌抄)

平成 26 年 5 月 1 日 (木) 【曇りのち晴れ】
 中央南側の調査区 (Ⅲ区) より表土剥ぎを開始する。

平成 26 年 5 月 21 日 (水) 【晴れ】
 発掘作業員を投入し、本格的に調査を開始する。

平成 26 年 6 月 3 日 (火) 【曇り】
 周辺の田に水が入り、調査区が水没する。

平成 26 年 6 月 6 日 (金) 【曇りのち晴れ】
 オートポンプを据え、常時水を汲み上げるようにする。

平成 26 年 6 月 20 日 (金) 【晴れ】
 水に悩まされながらもⅣ区の調査を終える。行橋農林事務所と協議し、他の調査区は田の水が引いてから再開することとし、現場を一時中断することを決定する。

平成 26 年 9 月 10 日 (水) 【晴れ】
 現場を本格的に再開する。Ⅲ区の遺構検出、掘り下げを行う。

平成 26 年 9 月 12 日 (金) 【晴れ】
 Ⅰ区の遺構検出、掘り下げを行う。Ⅲ区の測量を行う。

平成 26 年 9 月 17 日 (水) 【晴れ】
 Ⅰ区の掘り下げが完了し、写真撮影を行う。その後、測量に移る。

平成 26 年 9 月 18 日 (木) 【曇り】
 Ⅲ区の掘り下げを終え、写真撮影を行う。

平成 26 年 9 月 23 日 (火) 【晴れ】
 Ⅰ区・Ⅲ区の調査を終え、Ⅱ区の表土剥ぎを開始する。

平成 26 年 9 月 27 日 (土) 【曇りのち曇り】
 Ⅱ区の遺構検出、掘り下げを開始する。

平成 26 年 10 月 1 日 (水) 【曇り】
 Ⅱ区の掘り下げが完了し、写真撮影を行う。その後、測量に移る。

平成 26 年 10 月 7 日 (火) 【晴れ】
 Ⅱ区の調査を終了する。現場を撤収し、調査をすべて終了する。



第1図 草場上二ノ坪遺跡調査区域 (1/5,000)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

福岡県行橋市は県北東部に所在する（第2図）。この地域は旧郡名の頭文字を取り京築地方と呼ばれ、行橋市はその中心都市で人口72,760人（平成27年9月末日現在）を擁す。市域は京都平野の中央部を占め、東に豊前海（広域には周防灘）を臨む。山地は少なく、南西部に馬ヶ岳〔216m〕、御所ヶ岳（ホトギ山：246.9m）などが東西に連なり、みやこ町豊津・犀川地域と画す。北九州市小倉南区と接する北西部は国指定特別天然記念物の平尾台カルストの石灰岩台地が広がる。他に観音山〔202m〕、幸ノ山〔178m〕、観山〔121.7m〕など少数の独立山塊がある。市内には霊峰・英彦山を源とする今川、祇川をはじめ、小波瀬川、長峽川、江尻川、音無川などの中小の河川が流れ、豊前海に注ぐ。

本書で報告する草場上二ノ坪遺跡は、祇川下流左岸の扇状地、標高16m前後に所在する。

第2節 歴史的環境

京都平野における人類の痕跡は、今からおよそ3万年前の後期旧石器時代初頭にさかのぼり、市域では渡築柴遺跡C区で該期の石器および礫群が見つかった。

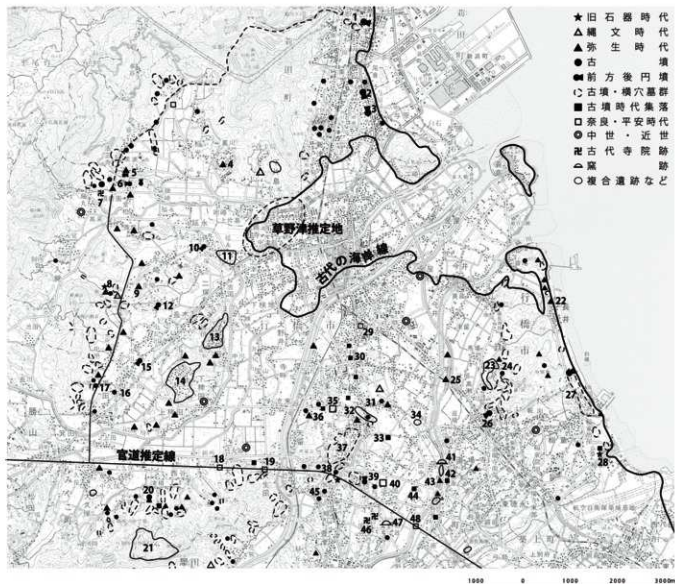
続く縄文時代は、全国的に温暖化の影響で海進が発達した。そのピークは約4800年前頃で、現在の延永―津熊―大橋―今井―津留を結ぶラインがその頃の汀線と考えられている。この汀線は弥生時代以降若干海退するものの、江戸時代以来の干拓によって、養島と陸続きになるまで、京都平野は現在とは大きく異なる内湾性の臨海平野を形成していた（第3図）。縄文時代の遺跡は、遺構は不明確ながら、早期の押型文土器や後期の西平式系土器など、各期の遺物が徐々に知られるようになって来た。

2500年前頃を境に、生業の主体を狩猟採集とする縄文時代から稲作農耕とする弥生時代へと変化していく。この地域において遺跡が爆発的に増加するのは弥生前期後半からで、下稗田遺跡、前田山遺跡など大規模な集落が形成される。

3世紀後半頃に始まる古墳時代には九州で最大・最古級の畿内型前方後円墳である石塚山古墳が菊田町域に築かれ、その海浜部で前期から中期への首長墓系譜をたどることができる。後期には京都平野内陸部



第2図 草場上二ノ坪遺跡の位置（1/2,000,000）



- | | | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|-------------|------------|
| 1.石塚山古墳 | 2.番塚古墳 | 3.御所山古墳 | 4.葛川遺跡 | 5.黒塚メウツ塚古墳 | 6.徳永丸山古墳 |
| 7.藤市興寺 | 8.入覚大原遺跡 | 9.下崎丸山遺跡 | 10.ピツノクマ古墳 | 11.延永ヤヨミ岡遺跡 | 12.八雷古墳 |
| 13.前田山遺跡 | 14.下碑田遺跡 | 15.庄屋塚古墳 | 16.橋塚古墳 | 17.綾塚古墳 | 18.大谷車庫遺跡 |
| 19.天生田大池遺跡 | 20.片峰1号墳 | 21.御所ヶ谷神籠石 | 22.長井遺跡 | 23.代遺跡 | 24.馬場代2号墳 |
| 25.辻垣遺跡 | 26.半人塚古墳 | 27.稲倉古墳群 | 28.渡築紫遺跡 | 29.崎野遺跡 | 30.福富小畑遺跡 |
| 31.待塚遺跡 | 32.竹並下ノ原遺跡 | 33.鬼無遺跡 | 34.草場上二ノ坪遺跡 | 35.福原長者原遺跡 | 36.欠留堂ノ前遺跡 |
| 37.竹並遺跡 | 38.甲塚方墳 | 39.惣社古墳 | 40.豊前国府跡 | 41.房屋敷堂跡 | 42.駒先遺跡 |
| 43.徳永川ノ上遺跡 | 44.京ヶ辻遺跡 | 45.彦徳甲塚古墳 | 46.豊前国分寺跡 | 47.徳政瓦窯跡 | 48.竹見塚ノ口遺跡 |

第3図 京都平野の主要遺跡分布図 (1/80,000)

に移動し、市内では八雷古墳が6世紀前半の首長墓と考えられる。7世紀になると全国的に古墳築造も停止傾向にあり古墳時代の終末期に入るが、京都平野では古墳時代終末期になっても古墳築造が盛行する。市内では福丸古墳群、渡築紫古墳群などが調査されている。この時代は古代史の上では飛鳥時代であり、仏教文化が地方にも根付き始めた頃である。市内では福丸地区に椿市麿寺が建立された。またこの頃、対大陸・半島情勢の悪化に伴い、津積に古代山城である御所ヶ谷神籠石が築かれた。泉地区に所在する福原長者原遺跡は東西幅150mの区域をもつ7世紀末から8世紀前半の官衙遺跡で、奈良時代は豊前国府として機能した可能性が指摘されている。

本書で報告する草場上二ノ坪遺跡は、古代から近世の集落、散布地である。

第3章 草場上二ノ坪遺跡

草場上二ノ坪遺跡の今回の発掘は、水路新設に起因するため調査区が北西-南東方向に縦長となった。排土置き場の関係上、数度の反転を行いながら調査を進め、北側から調査区をⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区とした。なおⅠ区とⅡ区、Ⅱ区とⅢ区の間は水田への進入口となるため、発掘調査ができなかった。調査区の行政地番は行橋市東泉五丁目712-4、761-3、763-2、764-4番地である。調査面積は約360㎡である。

調査の結果、多くの土坑や柱穴を検出したが、出土遺物は極端に少なかった。調査区の基本層序は上位より黒灰色土（耕作土）、黄褐色土となる。遺構検出面（地山）は褐灰色粘質土で、遺構の埋土は総じて黒褐色粘質土であった。以下では調査区ごとに遺構と遺物を本遺跡の調査成果として報告する。

第1節 Ⅰ区の調査

最も北側の調査区である。表土剥ぎの段階で北側は遺構が無かったため調査を行わなかった。面積は約110㎡（長さ22m、幅5m）。調査の結果、南側で溝状の遺構を検出し、2つの柱穴より遺物が出土した。

SD001（第4図、図版3・8）

Ⅰ区の南側で検出した。幅約1m、検出した長さは約5mで、南側は調査区外へと続く。出土遺物は無い。

SP002（第4・5図、図版8）

Ⅰ区の中央やや西寄りで検出した。埋土より須恵器と瓦質土器が出土した。

須恵器 1は壺。肩部の小片である。回転ナデで仕上げている。

瓦質土器 2は鉢と考えられる。平底をなす底部片である。近世の所産か。

SP003（第4・5図、図版8）

Ⅰ区の中央で検出した。埋土より白磁と染付、砥石が出土した。

白磁 3は碗。胴部の小片。近世の遺物である。

染付 4は碗。胴部の小片。外面をコバルトで絵付けをし、透明釉を薄くかける。近世の所産。

石器 16は砥石。小片で砥面を1面残す。砂岩製。

この他、表土から複数の遺物を採集し、11点を図化した（第5図、図版8）。

瓦質土器 5は鉢。底部の小片である。近世の所産。6は播鉢。体部の小片で、残存部に3条の播目を確認できる。近世の所産。7は鉢。平底をなす底部片。近世の所産と考えられる。

陶器 8は碗。底部片で、復元底径4.6cm、残高2.2cm。ロクロナデ成形し、薄い薰灰釉を施す。9は播鉢。口縁部片で端部をわずかに外反させ、外面上位に突帯をめぐらす。内面には播目を残す。近世の所産。

白磁 10・11は碗。いずれも底部片。口縁を玉縁もしくは嚙状に仕上げる、宋代の輸入陶磁器である。

染付 12～14は碗。いずれも口縁部片。近世の所産。15は角皿。底部の小片。近世の所産である。

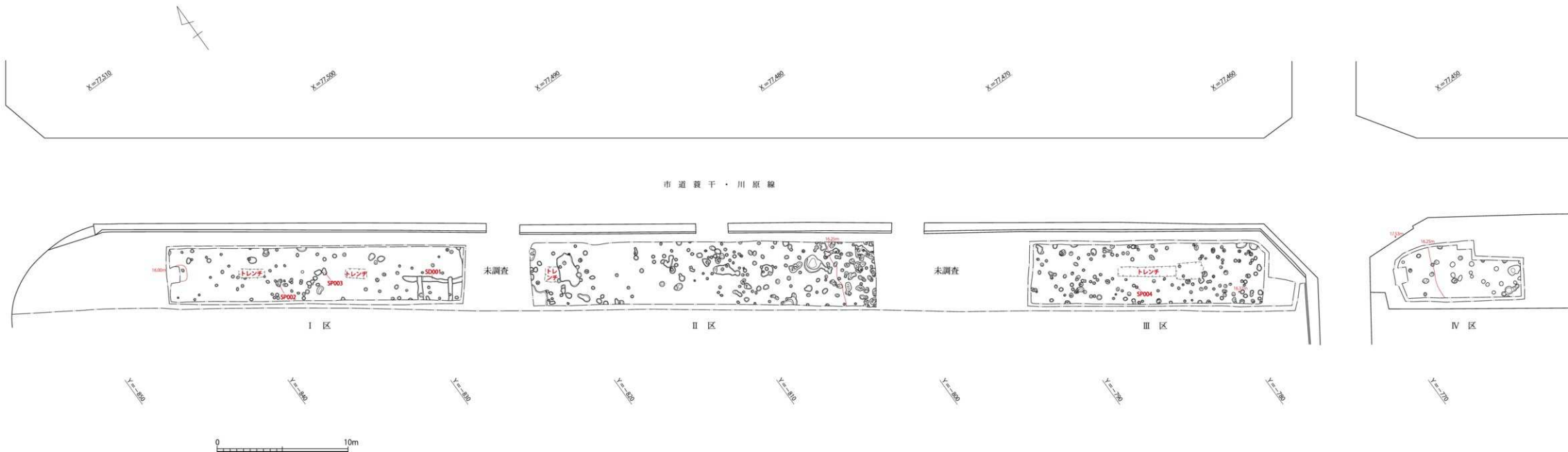
第2節 Ⅱ区の調査

Ⅰ区の南側の調査区である。面積は約130㎡（長さ26m、幅5m）である。調査の結果、多くの土坑、柱穴を確認したが、遺物が出土した遺構は無かった。表土より弥生土器片を採集した（第5図、図版8）。

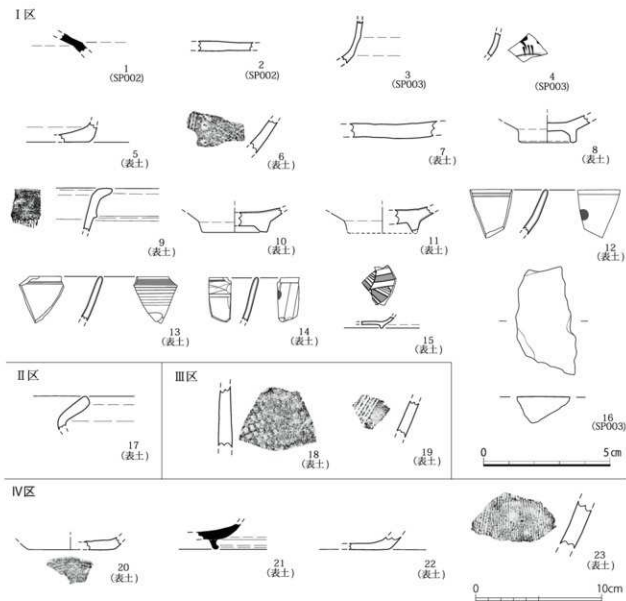
弥生土器 17は瓿。くの字をなす口縁部の小片である。

第3節 Ⅲ区の調査

Ⅱ区の南側の調査区である。面積は約90㎡（長さ18m、幅5m）。調査の結果、多くの土坑、柱穴を



第4図 草場上二ノ坪遺跡遺構配置図 (1/200)



第5図 草場上二ノ坪遺跡出土遺物実測図 (1/3・1/2)

確認した。1つの柱穴(SP004)から遺物が出土した以外は遺物は無く、表土から複数の遺物が採集できた。SP004 (第4図)

調査区の中央寄りで検出した。埋土より土師質系の土器片が出土したが、小片のため図化できなかった。この他、表土から複数の遺物を採集し、2点を図化した(第5図、図版8)。

瓦質土器 18は甕か。鍋の可能性もある。胴部の小片で、外面に格子目タタキを施す。中世の所産か。陶器 19は播鉢。体部の小片である。無軸で内面に6条の播目を残す。近世の遺物と思われる。

第4節 IV区の調査

最も南側の調査区である。Ⅲ区とは農道を隔てている。面積は約30㎡(長さ9m、幅3.5m)。調査の結果、複数の柱穴を検出したが出土遺物はない。表土より複数の遺物を採集し4点を図示した(第5図、図版8)。

土師器 20は小皿。底部片で復元底径6.8cm。外面底部には回転系切り痕を残す。中世の所産か。と

須恵器 21は埴。底部の小片で、高台部をナデ付けする。焼成はやや不良。古代に位置付けられる。

瓦質土器 22は鉢。底部片で焼成はやや不良。近世の所産。

陶器 23は甕。胴部片。内面にタテハケを施し、全体に鉄軸を薄くかけ黒色に仕上げる。

番号	出土遺構	種別	形状	法量(m)	調整	構成	粘土	色調	残存	備考
1	Ⅱ区 遺土	瓦葺土	竪	残高1.4	内:白磁ナズ 外:白磁ナズ	良好	微細～1mmの粗砂を少量含む	内:灰白S 7/ 外:灰S 1/	断面片	
2	Ⅱ区 遺土	瓦葺土	竪	残高0.9	内:ナズ 外:ナズ	良好	微細～1mmの白色粗砂を多く含む	内:灰白S 6/ 外:灰S 1/	断面片	
3	Ⅱ区 遺土	白磁	竪	残高3.4	内:ロクロナデー→陶輪 外:ロクロナデー→陶輪	良好	微細な粗砂を含む	内:灰白S 8/1 外:灰白S 2/2	断面片	
4	Ⅱ区 遺土	染付	竪	残高2.1	内:ロクロナデー 外:ロクロナデー→絵付け→陶輪	良好	特良	素地:灰白S 8/ 絵:灰白S 8/1	断面片	
5	Ⅱ区 遺土	瓦葺土	竪	残高1.8	内:白磁ナズ 外:白磁ナズ	良好	微細～1mmの白色粗砂を含む	内:灰白S 8/1	断面片	
6	Ⅱ区 遺土	瓦葺土	横鉢	残高2.6	内:ロクロナデー→摺目 外:ロクロナデー	やや不良	微細～3.6mmの細砂を多く含む	内:青灰S 6/1 外:青灰S 6/1	断面片	
7	Ⅱ区 遺土	瓦葺土	竪	残高1.3	内:ナズ 外:ナズ	良好	微細～3.6mmの白色粗砂を多く含む	内:灰白S 8/1	断面片	
8	Ⅱ区 遺土	陶器	甕	復元直径4.6 残高2.2	内:ロクロナデー→陶輪 外:ロクロナデー→陶輪	良好	微細な粗砂を含む	素地:灰白10YR 8/2 絵:黄緑2.5Y 6/2	断面片	高台部輪をさか とる
9	Ⅱ区 遺土	陶器	横鉢	残高2.4	内:ロクロナデー→摺目 外:ロクロナデー	良好	微細～2mmの白色粗砂を多く含む	内:灰:黄灰10YR 4/1	口縁断面片	
10	Ⅱ区 遺土	白磁	竪	復元直径5.2 残高2.0	内:ロクロナデー→陶輪 外:ロクロナデー	良好	微細～1mmの粗砂を少量含む	素地:灰白S 8/ 絵:灰白2.5Y 7/2	断面片	
11	Ⅱ区 遺土	白磁	竪	復元直径5.4 残高2.0	内:ロクロナデー→陶輪 外:ロクロナデー→陶輪	やや不良	微細な粗砂を含む	素地:灰白2.5Y 8/2 絵:灰白S 7/2	断面片	
12	Ⅱ区 遺土	染付	竪	残高3.9	内:ロクロナデー→絵付け→陶輪 外:ロクロナデー→絵付け→陶輪	良好	特良	素地:明黄緑10YR 7/1 絵:明緑灰10C 7/1	口縁断面片	
13	Ⅱ区 遺土	染付	竪	残高3.5	内:ロクロナデー→絵付け→陶輪 外:ロクロナデー→絵付け→陶輪	良好	特良	素地:灰白S 8/ 絵:灰白S 8/1	口縁断面片	
14	Ⅱ区 遺土	染付	竪	残高3.55	内:ロクロナデー→絵付け→陶輪 外:ロクロナデー→絵付け→陶輪	良好	特良	素地:灰白S 8/ 絵:明緑灰10C 8/1	口縁断面片	
15	Ⅱ区 遺土	染付	丸蓋	残高0.9	内:ロクロナデー→絵付け→陶輪 外:ロクロナデー→陶輪	良好	特良	素地:灰白S 8/ 絵:明緑灰10C 8/1	断面片	
16	Ⅱ区 遺土	石碁	碁石	残存長4.0 残存幅2.3 残存厚1.0 重量7.96g	—	—	砂岩	灰(2.5Y 8/2)	小片	碁盤一面を確保す
17	Ⅲ区 遺土	赤土土	竪	残高2.4	内:ココナデ 外:ココナデ	やや不良	微細～1mmの細砂を含む	内:明黄緑10YR 6/6 外:黄緑黄10YR 6/4	口縁断面片	
18	Ⅲ区 遺土	瓦葺土	竪	残高4.9	内:ナズ 外:ナズ→磨子目タタキ	良好	微細～2mmの白色粗砂を多く含む	内:灰白10YR 8/2 外:灰白10YR 8/1	断面片	
19	Ⅲ区 遺土	陶器	横鉢	残高3.0	内:ロクロナデー→摺目 外:ロクロナデー	良好	微細～2mmの粗砂を少量含む	内:灰黄7.5YR 6/2 外:黄10YR 6/6	断面片	
20	Ⅲ区 遺土	土師器	小皿	復元直径6.8 残高1.0	内:ロクロナデー 外:ロクロナデー→陶輪→切り	良好	微細～0.6mmの粗砂を少量含む	内:灰:土灰10YR 7/4	断面片	
21	Ⅲ区 遺土	瓦葺土	竪	残高2.1	内:白磁ナズ 外:白磁ナズ→高台ナズ付け	やや不良	微細な粗砂を含む	内:灰白S 7/1	断面片	
22	Ⅲ区 遺土	瓦葺土	竪	残高1.0	内:白磁ナズ 外:白磁ナズ	やや不良	微細～2mmの粗砂を多く含む	内:灰白S 8/1 外:灰黄2.5Y 2/2	断面片	
23	Ⅲ区 遺土	陶器	壺	残高3.9	内:ロクロナデー→タテハケ→陶輪 外:ロクロナデー→陶輪	良好	微細～2mmの細砂を少量含む	素地:灰S 6/1 絵:青黄S 2/1	断面片	

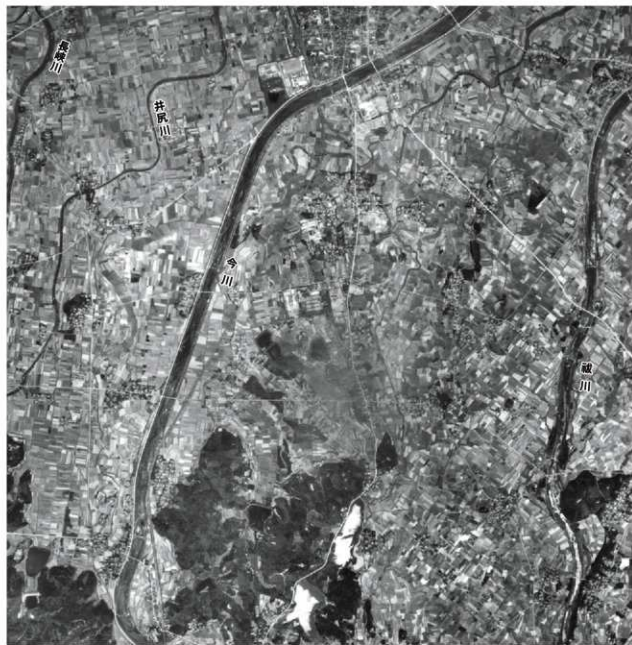
表1 草場上二ノ坪遺跡出土遺物観察表

第4章 結 語

以上、草場上二ノ坪遺跡の発掘調査成果を報告してきた。今回の調査では土坑、柱穴、溝と複数の遺構を確認した。特にⅡ区、Ⅲ区では遺構密度が高かったが、全体的に出土遺物がほとんどなく、遺跡の様相を考察するには十分ではないが、遺物の帰属時期より古代から近世にかけての集落と考えられる。遺跡の範囲は周辺の試掘調査よりさらに北側へと広がっており、将来の調査の進展が期待される。

草場上二ノ坪遺跡の位置する行橋市草場地区は、調査地点の南約500mに旧郷社である草場神社（豊日別宮）が鎮座し、古来より宇佐宮の祭祀に重要な役割を果たしてきた。その周辺が室町期におかれた草場名以来の集落域と考えられる。今回の調査成果は、その様相を具体的に示すものではないが、限られた文献史料を補完する意味で考古学的調査が果たす役割は大きく、今後の地域史解明のためにも周辺の調査事例の蓄積を待ちたい。

图 版



(1960年6月5日撮影 国土地理院発行を転載)

草場上二ノ坪遺跡の位置

図版2 草場上二ノ坪遺跡



1. 調査前（北西から）



2. I区全景（北西から）



3. I区全景（南東から）

1. I区SD001 検出状況



2. I区SD001 (北東から)



3. II区全景 (北西から)



図版4 草場上二ノ坪遺跡



1. II区全景（南東から）



2. II区全景（南から）



3. II区遺構検出状況

1. II区東側の柱穴群



2. III区全景（北西から）



3. III区全景（南東から）





1. III区遺構検出状況



2. IV区全景（北西から）



3. IV区全景（南東から）



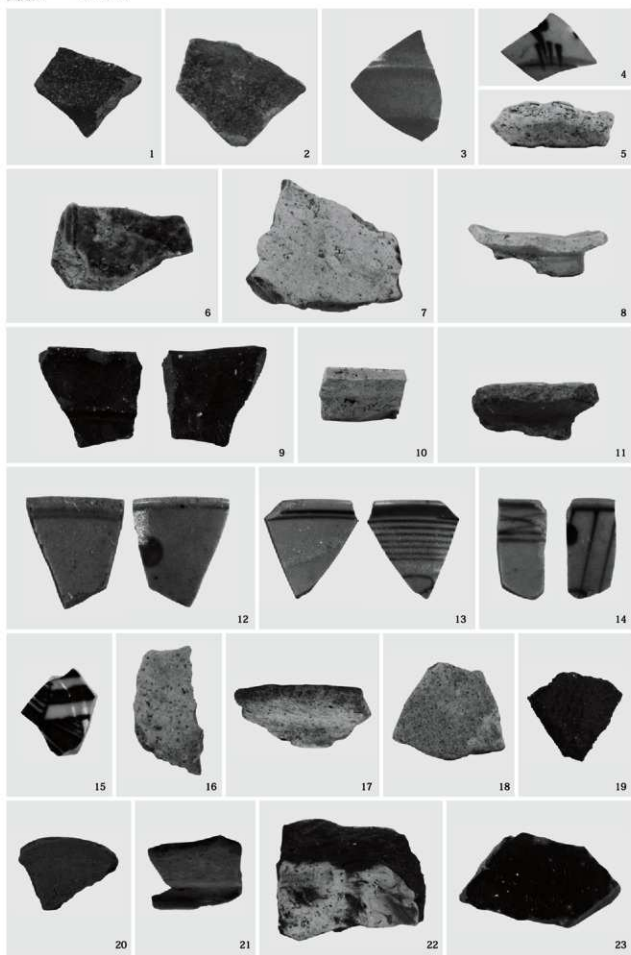
1. 発掘作業風景（Ⅲ区）



2. 測量調査風景（Ⅰ区）



3. 完成した水路（北西から）



報告書抄録

ふりがな	くさばかみにのつばいせき							
書名	草場上二ノ坪遺跡							
副書名	平島地区洪水防除事業関係埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	行橋市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 57 集							
編著者名	山口裕平							
編集機関	行橋市教育委員会							
所在地	〒 824-8601 福岡県行橋市中央一丁目 1 番 1 号 TEL 0930-25-1111 FAX 0930-25-1582							
発行年月日	2015 年 10 月 30 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
くさばかみにのつばいせき 草場上二ノ坪遺跡	福岡県行橋市 東泉五丁目 712-4、 761-3、763-2 764-4 番地	402133	14084001	33° 41′ 54″	130° 59′ 29″	20140501 ～ 20141007	360㎡	水路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
草場上二ノ坪遺跡	集落 散布地	古代～近世	土坑、溝、柱穴	須恵器、瓦質土器、 陶磁器、砥石				
要約	<p>京都平野東部を北流する、祇川下流左岸の標高 16m 前後の扇状地に立地する。多くの柱穴を検出したが出土遺物は少ない。古代から近世の集落と考えられる。なお試掘調査にて、遺跡の範囲はさらに北側に広がることを確認している。</p>							

2015年(平成27年)10月30日 発行

草場上二ノ坪遺跡

行橋市文化財調査報告書 第57集

著作権所有 福岡県行橋市中央一丁目1番1号

発行 行橋市教育委員会

印刷 福岡県行橋市中央三丁目3番10号
有限会社京都印刷